

来年度（平成 29 年度）スポーツ推進事業について

◎=部長 ○=副部長

子どもスポーツ部 (7人)	部員名	◎内川慶一郎	○眞嶋善昭	二見里香	高橋百合
		浅野昌也	丸山繁		
	主要活動	*子どものスポーツ活動の推進 ・小中学校との連携 ・スポーツ少年団活動への支援 ・親子スポーツ教室の開催 ・就学前の子どものスポーツ活動のきっかけづくり			
対象事業等	①親子スポーツ教室(2歳～年長) ②親子ウキウキ体操(2歳～年長) ③わんぱくGYM(ジム)教室(年中、年長児) ④幼保育園コーディネーショントレーニング派遣事業 ⑤ランニングクリニック(ファミリーの部)				

※協議事項（フリーディスカッション・意見交換）

1. 平成 28 年度上半期スポーツ推進事業報告について

【課題等】

- ①、②親子スポーツ教室に関して、親子体操教室との違いが市民に分かりづらい。
- ④コーディネーショントレーニング派遣事業については、全 18 園のうち 13 園で実施した。全園での実施をしたいが、指導者が不足している。
- (コーディネーショントレーニング(COT)とは、一般的に「運動神経・運動センス」などといわれる「運動の器用さ」を高めるトレーニングの一つですが、運動の器用さそのものを獲得するだけでなくその土台となる「運動学習能力(学ぶ力)」を得ることを最大の目的としています。)
- ⑤ランニングクリニックについては平成 28 年度で3回目の開催となった。当初の目的(ハーフマラソンへの対応)をある程度満たしたこともあり、今後の展開をどうしていくか。

(意見・メモ)

【穂高地区】

小学校、地区の育成会に対し親子レクやニュースポーツ紹介を公民館の要請により行っている。小学校のクラブ活動の指導や小学校のスキー教室も推進委員が主体となり指導している。今まで行ってきた市民運動会が本年より中止となったため、それに代わるものとして、ニュースポーツ普及も検討の課題となっている。以前は、小学校を巡回して、ニュースポーツの紹介をして来た経過もあった。

【豊科地区】

現在実施しているのは、新田地区の子供育成会の依頼によりニュースポーツ指導を行っている。昨年までは、豊科南中学校のクラスレク・ふれあいサークル活動でニュースポーツの指導を行っていた。本年の運動会種目の跳びっくら(かけっこ)では、今までに無いほどの小学生や中学生の参加があり大変盛り上がった。

【明科地区】

公民館の事業として、一般市民に対しニュースポーツ教室等の活動は行っているが、特に子ども対象の活動は行っていない。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(1) 小中学校との連携(児童生徒のスポーツに親しむ機会)

【課題等】

①校長会等で、コーディネーショントレーニングを学ぶ会の受講者募集の話をするが、進まない。連携はない。

②小中学校との連携できる方法は？ 連携できる教室等はあるか？ 等

(意見、企画・メモ)

推進委員として活動するためには、小中学校に対する周知(活動の推進)をどうするかが課題の一つである。従って各学校に対する周知を教育委員会として推進委員を活用するよう、積極的に宣伝をしてほしい。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(2) スポーツ少年団活動への支援(子どものスポーツ活動の機会の充実)

【課題等】

①市では、スポーツ少年団に補助金を交付している。

(意見、企画・メモ)

<スポーツ少年団活動への意見でも結構です。>

スポーツ少年団の活動については、少年団の指導員が指導を行っており、推進委員としての関わりが少ない。しかし、その前段として主に就学前の子供たちに対し、ニュースポーツや親子スポーツ等を通じてスポーツの面白さを推進し、少年団への加入に後押しをすることが必要である。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(3) 親子スポーツ教室の開催(子どもを通じた、家族向けのスポーツ教室)

【課題等】

1と同じ。

(意見、企画・メモ)

現在参加している多くの親子は、気軽に参加できることから、各地区にある児童館事業や各地区の子供育成会への参加が多いと思われる。教育委員会主催で行う親子ウキウキ体操教室や親子スポーツ教室等の充実も大切であるが、児童館や各地域の公民館(子供育成会)等との連携が出来れば、推進委員としての活動範囲が広がると思われる。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(4) 就学前の子どものスポーツ活動のきっかけづくり

(幼児遊びを通じ、体を動かすことの楽しさを味わう教室)

(意見、企画・メモ)

(2)、(3)と同じ。

3. 地域のスポーツ活動について (運動会等)

(意見、企画・メモ)

穂高地区は本年より運動会がなくなってしまったが、それに代わるものを早急に検討し、他の地区は運動会の内容を充実し、より多くの市民が楽しく参加いただけるよう検討を進めていく。また、各地区で行っているスポーツ活動は、推進委員として積極的に参加し、各公民館や各地区の団体との連携を深め、活気のある事業内容にしていく。

来年度スポーツ推進事業について

◎=部長 ○=副部長

ビギナーシニア教室部 (7人)	部員名	◎白井良臣	○久根下直敏	逢澤玲子	高沢英子
		細野築三	遠藤正美	石田和子	
	主要活動	*スポーツを親しむ機会の充実 ・未経験者・初心者向けのスポーツ教室の開催 ・成人向けスポーツ教室の開催			
対象事業等	・スマイルステップ教室 ・ニュースポーツ教室 ・ヘルスアップ教室 ・ウェーブリングストレッチ教室 ・ピラティス教室 ・ヨガ教室 ※下線がある教室は H28 年度からの新規事業				

※協議事項 (フリーディスカッション・意見交換)

1. 平成 28 年度上半期スポーツ推進事業報告について

【課題等】

①スポーツ教室は、安曇野市スポーツ教室開催要綱にあるとおり、「教室終了後は、クラブとして自主的に継続して行うよう指導する」とあり、クラブ化にして、また新たな教室を生み出していくことがスポーツ人口を増やすことに繋がると考えるがクラブ化が進まない。

(意見・メモ)

- ・ビギナーシニア教室が全体的に女性向けの傾向であるので、時間の工夫で若い男性が参加できるものも必要。
- ・クラブ化のできた教室もあるので、今後は総合型スポーツクラブへの参加を誘導しても良いのでは。
- ・参加メンバーが固定化しているので、会場を変える等の新規参加者の掘り起しも必要。
- ・単一の教室のみ活動するのではなく、他の教室とも連携して、参加者が飽きない工夫が必要。
- ・ニュースポーツ教室について
参加者が固定化する傾向があることから、豊科以外の会場で開催してみた方が新規の方を取り込むことができるのではないかと。新規の方がせっかく参加してくれても、長年参加している人たちのグループがあつて続けづらい雰囲気がある。
- ・ウェーブリングストレッチ教室について
個人的な意見だが、ウェーブリングストレッチはあまり好きではない。理由としてはわざわざ専用のリングを使わなくても、他の道具で代用できるし、ストレッチのパターンがあまりないため、やり方がわかれば教わらなくても自分で取り組むことができるからである。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(1) 未経験者・初心者向けのスポーツ教室の開催(気軽にスポーツを楽しめるように)

(意見、企画・メモ)

- ・ピラティス、ヨガは初心者でも良いので、継続しても良い。
- ・ピラティスは、該当世代は若い人向きだと思う。
- ・現在昼に開催しているピラティス教室を夜に開催してみたり、現在夜に開催しているヨガ教室を昼に開催してみてもいいかもしれない。理由は、ピラティスは体幹やインナーマッスルを鍛えるようなものであり、どちらかというとな若年層向けである一方、ヨガは年齢の高い方でも取り組みやすいものであるため。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(2) 成人向けスポーツ教室の開催(仕事や家事などのスポーツ活動が難しい状況にある20歳～50歳代のため、教室の開催日、時間に配慮し、魅力ある教室)

(意見、企画・メモ)

<ピオダンス、チベット体操、ヨガ、スラックラインなど資格を持った方からの打診がある>

- ・指導者は安曇野市在住の方をお願いし、地域での繋がりを期待している。
- ・若にお母さんが参加できる時間帯(午後2～4時等)での教室も考えたかどうか。
- ・今年度は市外から来てもらっている講師も多いが、講師の先生については安曇野に住む方、出身の方を優先した方がいい。その方がサークル化にもつながりやすいし、もともとのつながりがあって人を呼びやすいと思う。
- ・若い方(出産後の女性等)に参加してもらうために、託児のできる教室を増やし、時間を工夫すればよい。
- ・夜にもっと開催してほしい。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(3) 一般成人男性向け教室の開催

【課題等】

① 男性の参加者は殆どいない。

(意見、企画・メモ)

- ・ 今年度の教室一覧をみても、全体的に女性向けという印象を受ける。男性向けの教室として、トレーニングマシンを使ったり、みんなでランニングをしたりする教室はどうか。
- ・ 無理に男性を集めなくてもいいのではないか。

3. 地域のスポーツ活動について (運動会等)

(意見、企画・メモ)

特段の意見なし。

来年度スポーツ推進事業について

◎=部長 ○=副部長

健康・体力づくり部 (7人)	部員名	◎塩原昭一	○水口朋巳	望月武晴	布山まゆみ
		岡里正成	加々美真弓	古畑やよい	
	主要活動	*スポーツによる健康・体力づくりの推進 ・スポーツによる健康、体力づくりに向けた意識啓発 ・体力測定の実施 ・歩くことから始める健康づくり ・研究機関、専門機関との連携 ・健康スポーツ指導力の向上			
対象事業等	①インターバル速歩(体験会、講習会) ②ノルディックウォーク講習会 ③コーディネーショントレーニング事業全般(キッズ教室) ④ファミリースポーツカフェ(旧名称:安曇野らくらくスポーツカレッジ) ⑤ポールウォーキング講習会 ⑥安曇野ウォーキング				

※協議事項 (フリーディスカッション・意見交換)

1. 平成 28 年度上半期スポーツ推進事業報告について

【課題等】

- ①インターバル速歩は本年度からスポーツ推進担当が所管となった。委託事業であるが、他の教室と比べ、経費や参加者負担が高く、今後の継続性に課題がある。
- ②ノルディックウォークは、H28 年度新規事業であったが参加者から好評であった。3 年程度継続していきたい。(講師と継続性に課題あり)
- ③コーディネーショントレーニングについて、前年度に参加者の少なかったシニア教室の開催をしなかった。キッズ教室(7、11月)は好評であり、今後も継続して開催したい。(参加者側として、コーディネーションという言葉への抵抗感があるか?)
(コーディネーショントレーニング(COT)とは、一般的に「運動神経・運動センス」などといわれる「運動の器用さ」を高めるトレーニングの一つですが、運動の器用さそのものを獲得するだけでなくその土台となる「運動学習能力(学ぶ力)」を得ることを最大の目的としています。)
- ④安曇野らくらくスポーツカレッジについては、5 回コースで、定員が各 50 人であるが、参加者が少ない。
- ⑤・⑥ウォーキングについては、参加者が少ない傾向がある。内容を精査する必要があるか。

(意見・メモ)

- ①インターバル速歩は、教室後にどのくらい継続しているのか、把握することも大事。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(1) スポーツによる健康、体力づくりの推進

(健康づくりの観点から見たスポーツ教室の意義など、健康とスポーツのかかわりを市民に対し広く周知するとともに、健康づくりに対する正しい知識の普及)

【課題等】

- ① 現在各種スポーツ教室の参加募集は、4月に発行する「スポーツ教室等一覧表」と毎月2回の広報、市ホームページであるが、特に成人者向けの教室等に関しては広報活動が難しい。
- ② スポーツ教室の意義など、健康とスポーツのかかわりを市民に対し広く周知する方法をどのように展開していくか。

(意見、企画・メモ)

- ・ 新たに建設予定の体育館内にトレーニングジムを設置し、その場所が安価で自由に使用できる空間となれば、周知のポスターなどを掲示することで、今まで教室に参加しなかったような方々の参加も望めるのでは。(今の市内にはそういった場所がない)
- ・ 広報誌は年配者向けで若い方々はほとんど見ていないのでは。何らかの工夫が必要と思われる。

2. 来年度スポーツ推進事業について

(2) 体力測定の実施

【課題等】

- ① 本年度は開催をすることが難しい状況。事務局としては、来年度以降、年2回を基本に継続して開催をしていきたいと考えている。

(意見、企画・メモ)

- ・ 体力測定の実施に異論はない。上記の広報と絡めての話となるが、体力測定の場で広報をしていくことも必要ではないか。

2. 来年度スポーツ推進事業について**(3) 歩くことから始める健康づくり****【課題等】**

①ウォーキング教室は、参加者が少ない傾向がある。

(意見、企画・メモ)

①市内を歩く企画では参加者は少ないと思われる。市外の上高地で教室を開催するというのであれば、多くの応募があるのではないか。

※企画する人が「参加したい」と思うような企画をすることが大事。

3. 地域のスポーツ活動について (運動会等)**(意見、企画・メモ)**

・パン食い競走などは、今も人気があり、盛り上がる。

来年度スポーツ推進事業について

◎＝部長 ○＝副部長

スポーツ振興・交流部 (7人)	部員名	◎赤羽利夫 巢山敦子	○西沢武雄 下川充弘	望月健保 中山一彦	林文彦 丸山俊樹
	主要活動	＊スポーツを通じた交流 ・スポーツを親しむイベントの開催 ・スポーツを通じた交流の充実 ＊高齢者・障がい者スポーツの推進 ・高齢者スポーツ活動の支援 ・障がい者スポーツの活動の充実、支援 ＊競技スポーツ振興と指導者の育成 ・大会参加への支援 ・指導者の育成			
	対象事業等	障がい者スポーツ教室 ・アーチェリー教室 ・市民スポーツ祭 ・子ども駅伝			

※協議事項（フリーディスカッション・意見交換）

1. 平成 28 年度上半期スポーツ推進事業報告について

(1) スポーツを通じた交流

(健康づくりを推進していくため、参加しやすいスポーツイベントの開催)

【課題等】

①市民スポーツ祭(総合開会式及びその後の交流会等)のマンネリ化。

(意見・メモ)

- ・市民スポーツ祭総合開会式の当日になるべく多くの競技を開催できるよう希望する。大勢の参加が見込め、開会式終了後に各会場に移動し、その日のうちにできるだけ多くの競技を行う。
- ・イベント的なものや全員参加できる（運動会の種目でも良い）ものなどの企画をすることが必要では。（開会式のみ動員では参加者数に限りがある）

2. 来年度スポーツ推進事業について
(2) 高齢者・障がい者スポーツの推進

【課題等】

①時代背景としては、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて障がい者スポーツ教室などに力を入れていく方向性。(シッティングバレーやブラインドサッカーなど、取り組みそうなものから取り組むか?)

②他の関係課(福祉課、介護保険課、健康推進課など)との連携及び事業のすみわけ

(意見、企画・メモ)

- ・他の関係課との連携や事業のすみわけをしてもらい、スポーツ推進委員も要請があれば対応出来る様、勉強等をしていく必要がある。

2. 来年度スポーツ推進事業について
(3) 競技スポーツ振興と指導者の育成

【課題等】

①指導者の不足や指導者育成体制が確立されていないケースがある。

②中学校部活動との関係性

(意見、企画・メモ)

- ・体育協会やスポーツ少年団との関係もあるが、情報交換をし、コーディネイトの役目が必要である。
- ・中学校との関係は、実情が分からなく情報不足であるが、スポーツ推進委員の力が必要であれば、研究して対応する。

3. 地域のスポーツ活動について（運動会等）

（意見、企画・メモ）

- ・現状では、穂高地区の全体運動会を除けば、スポーツ推進委員が実行委員会の中心となり、活動している。地域体協の組織がなくなり、今は以前の繋がりで協力していただいているが、将来的には多少の不安がある。何れにしても各地域での活動により、この繋がりが続くよう努力していきたい。